

《2014年(平成26年)度入学生用》

〔建築学部 3学科共同年次〕

School of Architecture
Common Basic Curriculum

【建築学部3学科共通】

建築学部 まちづくり学科
建築学部 建築学科
建築学部 建築デザイン学科

■建築学部3学科共同年次の教育理念

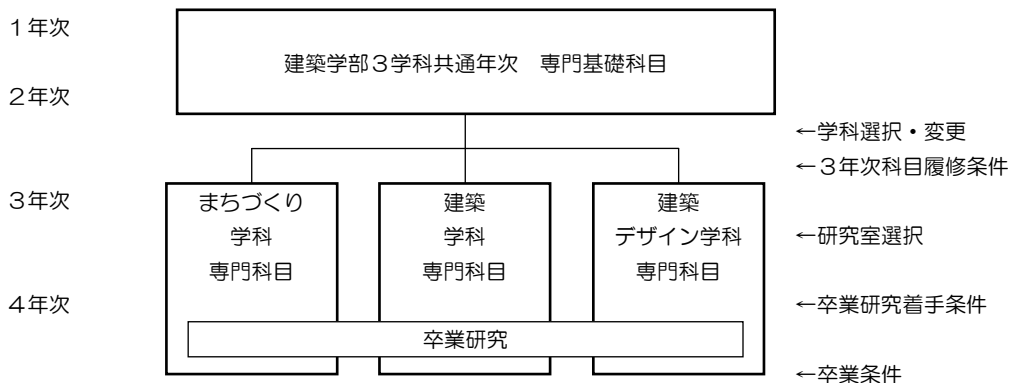
これまでの建築教育体系では、多くの大学が単一学科の中で1～4年次の教育を一本の道筋で行ってきた。しかし、近年、建築に対する社会的要請がより多様なものとなり、学生の興味も多様化している時代にあって、建築学及びそれに関連する幅広い分野の教育が求められるようになってきた。こうした傾向に対応して、建築学部では、1、2年次を、建築学部の3学科共同年次とし、人間力及びコミュニケーション力を養うO群の「実践基礎科目」とA群の「総合教育科目」、専門力を養うB群の「専門科目」による2本の大きな柱で教育課程を編成している。なおB群の専門科目は、1、2年次に配当される「専門基礎科目」と3、4年次に配当される「専門科目」とに分けられる。これらにより、建築学部の3学科共同年次では専門分野だけに偏らない総合的な能力のある人材を育成することを目標とする。1、2年次の建築学部3学科共同年次においては、B群の専門科目のうち、専門基礎教育に関する同一のカリキュラムを学習する。その目的とするところは以下の2点に集約される。

- ・建築学を学ぶ者に必要とされる基礎的な素養は、将来、どんな方向に進もうとも共通である。したがって、入学時からの2年間は、専門基礎教育に関する3学科同一のカリキュラムとして、基礎的な素養を身につける期間としている。また、この2年間の学習内容は、ほとんどの学生が将来の目標としている建築士資格を受験するために必要な内容のかかなりの部分をカバーしている。
- ・ひと言で「建築」と言っても幅は広く、奥も深い。大学を選ぶ段階で全体像を詳しく知ることは難しく、その段階で細かな学科を選択したとしても、入学後にその選択が本当に自分が勉強したいことと合っていないことに気づいたり、入学前には知らなかった分野があることを知り、そちらに進みたくなったりする例が少なからず見られる。そこで、1、2年次の専門基礎教育を通じて、この分野の幅の広さ、奥の深さのある程度理解し、将来の進路も見定めようとなる3年次から学科を選択する方法を採用している。1、2年次の3学科共同年次では、自分が将来進む方向性を見つけないという意識を持って学習に励んでほしい。また、従来は1、2年次に集中して学んできたいわゆる一般教養科目が、A群の総合教育科目として1～4年次に分散配置されているため、専門教育と一般教養教育とを有機的に結びつけて、専門だけに偏らない、全人格的な建築のプロフェッショナル育成の目標を達成できるような教育プログラムを構築している。

■建築学部3学科共同年次の学年進行の概要

建築学部3学科共同年次全体の教育理念を具現化するための仕組みは、概ね下図のようになっており、入学後、学年進行とともに徐々に細かく分かれていく。1、2年次におけるB群の専門基礎科目は、3学科共通のカリキュラムとなっており、選択の自由度は小さく、必修科目が多く配当されている。これらの科目は、建築学に関連するどのような分野に将来進んだとしても必要となる基礎的な素養であり、また建築士資格取得のために必須のものである。

一方、3、4年次は、学科に分かれてそれぞれに対応したカリキュラムに従って学習するとともに、研究室単位でのセミナー、卒業研究を履修する。各学科のカリキュラム編成は、それぞれの扉ページに記載されている。なお、学科の選択・変更の時期等については変更することもあり得るが、変更があった場合には掲示等で周知する。



■建築学部設置されている各学科の教育理念

【まちづくり学科】

まちづくり学科では、地球規模の大きな社会状況の変化のもとで、これから私たちがより快適に住み続けられるためのまちの新しいあり方を考え、身近なまちについて考える様々な視点（づくり手・住まい手の両方からの視点）を学修・研究する。都市デザイン、ランドスケープデザイン、環境共生、安全・安心を4つの柱として、多角的な視点から将来のまちを考え、実現していく素養を身につけていく。「まち」は建築の単なる集合体ではないが、建築がひとつの重要な構成要素である。建築の基礎的な素養・知識をベースにしてまちづくりを学ぶことで、より実現性の高いスキルを身につけられるのが、この学科の特徴である。

専門科目は、上記の4つの柱に対応して、学科全体に横断的に設置される共通科目の他に、都市デザイン科目、ランドスケープデザイン科目、環境共生科目、安全・安心科目から構成される。これらの中から学生各自が所属する研究室の専門分野に対応して、いずれかの科目群に軸足を持ちながら、関連する他分野科目、他の2学科に設置される専門科目と合わせて履修することでより高い学習効果を得る。こうした専門科目の履修にあたっては、研究室の担当教員が十分な履修指導を個別に行う。また、卒業研究においては、机上の空論に留まらず、本学の立地条件を活かしたより実践的なまちづくりに接する中で、各自の研究テーマを考えていく。

【建築学科】

建築学科では、今後も継続して、安全で快適な生活の場を構築することを目的とした教育・研究を行う。しかし、その教育・研究のベースとなるスタンスは大きく変化してきている。これまでの大量生産・大量消費時代の新規供給中心の建築の考え方は今や終焉を向かえ、安全で環境負荷の少ない生活環境の創造と維持を実現する建築の考え方を教育の中心に据えている。すなわち、人口減少社会、高齢社会、環境負荷軽減等の社会的な課題を背景として、建築をただ単に「つくる」だけでなく、それを使い続けたり、建築材料を資源として循環させたり、これからの新しい建築のあり方を規定するための高度な要素技術（計画、構造、設備、生産）を学ぶ。

専門科目は、学科全体に横断的に設置される共通科目の他に、建築計画科目、建築構造科目、建築設備科目、建築生産科目から構成される。名称だけだと旧来型の建築学科に見えるが、科目やその内容は最先端の上記の思想を反映したものになっている。これら4つの科目群の中から学生各自が所属する研究室の専門分野に対応して、いずれかの科目群に軸足を持ちながら、関連する他分野科目、他の2学科に設置される専門科目と合わせて履修することでより高い学習効果を得る。こうした専門科目の履修にあたっては、研究室の担当教員が十分な履修指導を個別に行う。また、卒業研究では、外部の研究所や企業との連携を密とし、八王子校舎に整備されている実験施設も活用して、各自の研究テーマについて考察していく。

【建築デザイン学科】

建築デザイン学科では、単に美しいだけでなく、機能的にも優れ、快適で使いやすい人間のための建築デザインとは何かを考え、建築の意匠デザイン、住宅・店舗等のインテリアデザイン、高齢者等に配慮した住環境デザイン、重要な建造物の保存・再生に関わるデザインなど学び、新しいデザインを創造・発信していく。わが国は、戦後、建築の量的な充足に専心してきたが、次第に美しい国を目指すことができるようになり、建築に対しても美しさ、調和

などが求められてきている。また、同時に環境への配慮や人間の生活の質（Quality of Life）をも考慮した建築のあり方を学んでいく。

建築デザイン学科の専門科目は、建築デザイン科目、インテリアデザイン科目、福祉住環境デザイン科目、保存・再生デザイン科目から構成され、いずれかの科目群に軸足を置きながら、関連する他分野科目、他学科科目と合わせて習得することでより高い学習効果を得る。専門科目の履修にあたっては、研究室の担当教員が個別に十分な履修指導を行う。単なる建築デザインを扱うのではなく、福祉住環境、保存・再生などの、これまでの建築デザインから間口を広げて、今後、より重要度の増す視点を盛り込んで学科を構成している。また、卒業研究では、架空のプロジェクトだけに留まらず、本学の立地も生かしながら、より実践的なプロジェクトへの設計・提案や研究を行っていく。

2014年(平成26年)度入学生用 建築学部3学科共通 履修フロー

カテゴリー 授業のねらい		1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	
【O群】	a)導入科目	建築ロジカルライティングⅠ	建築ロジカルライティングⅡ							
	b)総合文化科目	人文・社会科学の基礎A(2) 素描と表現(2)	人文・社会科学の基礎B(2) イメージと表現(2)	(第1類)人間の探求(2)×12科目, (第2類)社会の科学(2)×15科目, (第3類)世界と日本(2)×12科目, (第4類)芸術と表現(2)×10科目, (第5類)科学と文明(2)×11科目						
	c)自然科学系科目	基礎数学(2) 情報処理A(2)	物理学概論A(2) 化学概論(2)	自然科学系選択科目(2)×8科目						
	d)外国語科目	Introduction to Communicative English I (1) Basic Reading Skills I (1)	Introduction to Communicative English II (1) Basic Reading Skills II (1)	Basic Writing Skills I (1)	Basic Writing Skills II (1)	コミュニケーション科目(1)×10科目, 応用英語(2)×19科目, 第2外国語(2)×9科目				
	e)保健体育科目	身体・運動科学演習(2)			生涯スポーツA(1) 生涯スポーツB(1)		生涯スポーツC(1)			
	f)自由研究科目	自由研究科目(2)×15科目 + (4)×4科目								
	g)キャリア支援科目	キャリアデザイン(2)								
【B群】 専門基礎科目	a)専門基礎科目	建築入門 建築デザイン学概論	まちづくり学概論 建築学概論							
		基礎設計・図法(2)	建築設計Ⅰ(2)	建築設計Ⅱ(2)	建築設計Ⅲ(2)					
			建築計画Ⅰ(2)	建築計画Ⅱ(2)	建築計画Ⅲ(2)					
		都市デザイン(2)	地区まちづくり論(2)	都市計画(2)	ランドスケープデザイン(2)					
		建築の構造Ⅰ(2)	構造力学Ⅰ(2) 構造力学演習(1)	構造力学Ⅱ(2)	建築の構造Ⅱ(2)					
			建築材料(2)	建築施工(2)	建築構法(2)					
			環境工学Ⅰ(2)	環境工学Ⅱ(2)	設備計画(2) 建築法規(2)					
				構造基礎実験(2) 材料実験(2) 環境基礎実験(2) 測量実習(2)						
		社会貢献学入門(2)	減災学入門(2)	減災学入門(2)	減災学入門(2) 建築技術者の倫理(2)					
						まちづくり学科学生はまちづくり学科の頁を参照のこと				
				建築学科学生は建築学科の頁を参照のこと						
				建築デザイン学科の学生は建築デザイン学科の頁を参照のこと						

必修科目
学年指定選択必修科目
選択必修科目
選択科目
前期または後期

〔建築学部〕

3学科共通 専門基礎科目

2014年(平成26年)度入学生用

専門基礎科目

○印＝必修科目、△印＝選択必修科目、無印＝選択科目

授 業 科 目				標準履修学年と毎週授業時限数 (コマ数)								備 考	
区 分	種 別	科目名	単位数	1 年		2 年		3 年		4 年			
				前	後	前	後	前	後	前	後		
【○群】		建築ロジカルライティングⅠ	2	1									
		建築ロジカルライティングⅡ	2		1								
【B群】 専 門 科 目 a) 専門基礎科目		建築入門	2	1									
		まちづくり学概論	2		1								
		建築学概論	2		1								
		建築デザイン学概論	2	1									
	○	基礎設計・図法	2	2									
	○	建築設計Ⅰ	2		2								
	○	建築設計Ⅱ	2			2							
	○	建築設計Ⅲ	2				2						
	○	建築計画Ⅰ	2		1								
	○	建築計画Ⅱ	2			1							
	○	建築計画Ⅲ	2				1						
	○	日本建築史	2			1							
	○	西洋建築史	2				1						
		都市デザイン	2	1									
		地区まちづくり論	2		1								
	○	都市計画	2			1							
	○	ランドスケープデザイン	2				1						
	○	建築の構造Ⅰ	2	1									
		建築の構造Ⅱ	2				1						
	○	構造力学Ⅰ	2		1								
	○	構造力学Ⅱ	2			1							
		構造力学演習	1		1								
	○	建築材料	2		1								
	○	建築施工	2			1							
	○	建築構法	2				1						
	○	環境工学Ⅰ	2		1								
	○	環境工学Ⅱ	2			1							
	○	設備計画	2				1						
	○	建築法規	2				1						
	△	構造基礎実験	2			2							これらのうち、いずれか1科目 2単位の修得を必要とする。
	△	材料実験	2			2							
	△	環境基礎実験	2			2							
△	測量実習	2			2								
	建築技術者の倫理	2				1							
	社会貢献学入門	2	1										
	減災学入門	2	☆	または	☆							注1)	
小 計			75										

注1) 夏期集中

〔建築学部〕

建築学科 専門科目

2014年(平成26年)度入学生用

このカリキュラムを11カリキュラムとする

○印＝必修科目、△印＝選択必修科目、無印＝選択科目

専門科目

授 業 科 目				標準履修学年と毎週授業時限数 (コマ数)				備 考
区 分	種 別	科目名	単位数	1 年 前・後	2 年 前・後	3 年 前・後	4 年 前・後	
【B群】専門科目		線形代数学Ⅰ	2	1				
		線形代数学Ⅱ	2		1			
		代数学	2				1	
		幾何学Ⅰ	2		1			
		幾何学Ⅱ	2			1		
		ベクトル解析	2				1	
		統計学	2			1		
		微分方程式論	2		1			
		複素関数論	2				1	
		応用解析学	2					1
	小 計		20					

◇建築学部3学科共通年次の履修規定と履修上の注意〔第1部 2014年(平成26年)度入学生用〕

I 履修規定（建築学部全学科共通）

【3年次科目履修条件，卒業研究着手条件及び卒業条件】

群	科目区分	3年次科目履修条件（注1）	卒業研究着手に必要な単位数（注2）	卒業に必要な単位数（注3）
[O群] 実践基礎科目	a) 導入科目			
[A群] 総合教育科目	b) 総合文化科目 （注4）		指定選択必修 4単位	合計で24単位 （含む，a）総合文化科目，b） 自然科学系科目各4単位）
	c) 自然科学系科目 （注4）		指定選択必修 4単位	
	d) 外国語科目		必修6単位	8単位（含む必修6単位）
	e) 保健体育科目		必修2単位	2単位 （含む必修2単位，上限5単位）
	f) 自由研究科目 g) キャリア科目			
[B群] 専門科目	必修科目	必修科目・選 択必修科目合 わせて36単 位	1,2年次配当のす べての必修科目 40単位	42単位
	選択必修科目		2単位	2単位（注5）
	選択科目			30単位（注6）
	卒業研究			8単位
合計		62単位	100単位	124単位

(注1) 3年次及び4年次の科目を履修するには，2カ年以上在学し，本条件を充足しなければならない（転部，転学部，転科および編入学生は除く）。なお，3年前期で本条件を充足した場合は，3年次後期に開講される科目の履修が制限されるものがある。

(注2) 本条件の合計単位数100単位と，総合教育科目，専門科目の必要最小単位数の合計58単位との差は42単位である。この42単位の履修は，各自で卒業に必要な単位数や将来の専門分野などを考慮して計画的に履修すること。

(注3) 本条件の合計単位数124単位と，総合教育科目，専門科目の必要最小単位数の合計116単位との差は8単位である。この8単位は，実践基礎科目，総合教育科目，専門科目，他学科科目から自由に修得できる。

(注4) 総合文化科目，自然科学系科目に含まれる1年次指定選択必修科目（下表）は，大学4年間の学習の基盤となる科目なので，8科目のなかから，1年次の前期・後期とも最低2科目ずつ以上履修しなければならない。なお，1年次指定選択必修科目の単位も，卒業研究着手および卒業に必要なとなるA群b)およびc)の単位数に含めることができる。

(注5) 専門科目の選択必修科目（構造基礎実験，材料実験，環境基礎実験，測量演習）は2科目以上履修できない。

(注6) 本条件には，建築学部他学科3，4年次に配当されている選択科目14単位を含めることができる。

◆1年次指定選択必修科目

	1年生前期	1年生後期
総合文化科目	人文・社会科学の基礎A	人文・社会科学の基礎B
	素描と表現	イメージと表現
自然科学系科目	基礎数学	物理学概論A
	情報処理A	化学概論

Ⅱ カリキュラムの経過措置と再入学生、編入学生に対する取扱い

- (イ) 学生には、入学年度のカリキュラムが適用される。
- (ロ) 入学年度のカリキュラムにない専門科目を修得した場合は、「カリキュラムの変遷表」(『履修の手引き』参照)によって認定される。
- (ハ) 再入学生、編入学生には、再入学、編入学年次に該当するカリキュラムが適用される。
- (ニ) 編入学生に対する特別措置として、第2部建築学科の開講科目のうち、予め許可された科目については、その科目を履修することで、建築学部の科目履修に代えることができる。詳細は、別途定める。

Ⅲ 履修上の注意

- (イ) 3年次に進級する際、まちづくり学科、建築学科、建築デザイン学科のいずれかに所属が決定するが、所属において単位を修得した科目と同一名称の本学他学科開設科目がある場合、それを重ねて履修することはできない。また、名称の異なる科目であっても、別途定める「建築学部専門科目対応表」で、重ねて履修することのできない他学科開設科目を指定してあるので注意すること。
- (ロ) 履修上の注意については、必要に応じて建築学部掲示板にて指示する。

◇建築学部3学科共通年次の履修規定と履修上の注意〔第1部 2014年(平成26年)度入学生用〕

I 履修規定(建築学部全学科共通)

【3年次科目履修条件、卒業研究着手条件及び卒業条件】

群	科目区分	3年次科目履修条件(注1)	卒業研究着手に必要な単位数(注2)	卒業に必要な単位数(注3)	
[O群] 実践基礎科目	a) 導入科目			合計で24単位 (含む、b)総合文化科目、c) 自然科学系科目各4単位)	
[A群] 総合教育科目	b) 総合文化科目(注4)		指定選択必修 4単位		
	c) 自然科学系科目(注4)		指定選択必修 4単位		
	d) 外国語科目		必修6単位		8単位(含む必修6単位)
	e) 保健体育科目		必修2単位		2単位 (含む必修2単位、上限5単位)
	f) 自由研究科目 g) キャリア科目				
[B群] 専門科目	必修科目	必修科目・選択必修科目 合わせて36単位	1,2年次配当のすべての必修科目 40単位		42単位
	選択必修科目		2単位	2単位(注5)	
	選択科目			30単位(注6)	
	卒業研究			8単位	
合計		62単位	100単位	124単位	

(注1) 3年次及び4年次の科目を履修するには、2カ年以上在学し、本条件を充足しなければならない(転部、転学部、転科および編入学生は除く)。なお、3年前期で本条件を充足した場合は、3年次後期に開講される科目の履修が制限されるものがある。

(注2) 本条件の合計単位数100単位と、総合教育科目、専門科目の必要最小単位数の合計58単位との差は42単位である。この42単位の履修は、各自で卒業に必要な単位数や将来の専門分野などを考慮して計画的に履修すること。

(注3) 本条件の合計単位数124単位と、実践基礎科目、総合教育科目、専門科目の必要最小単位数の合計116単位との差は8単位である。この8単位は、実践基礎科目、総合教育科目、専門科目、他学科科目から自由に修得できる。

(注4) 総合文化科目、自然科学系科目に含まれる1年次指定選択必修科目(下表)は、大学4年間の学習の基盤となる科目なので、8科目のなかから、1年次の前期・後期とも最低2科目ずつ以上履修しなければならない。なお、1年次指定選択必修科目の単位も、卒業研究着手および卒業に必要なA群b)およびc)の単位数に含めることができる。

(注5) 専門科目の選択必修科目(構造基礎実験、材料実験、環境基礎実験、測量演習)は2科目以上履修できない。

(注6) 本条件には、建築学部の他学科3、4年次に配当されている選択科目14単位を含めることができる。

◆1年次指定選択必修科目

	1年生前期	1年生後期
総合文化科目	人文・社会科学の基礎A	人文・社会科学の基礎B
	素描と表現	イメージと表現
自然科学系科目	基礎数学	物理学概論A
	情報処理A	化学概論

II カリキュラムの経過措置と再入学生、編入学生に対する取扱い

- (イ) 学生には、入学年度のカリキュラムが適用される。
- (ロ) 入学年度のカリキュラムにない専門科目を修得した場合は、「カリキュラムの変遷表」(『履修の手引き』参照)によって認定される。
- (ハ) 再入学生、編入学生には、再入学、編入学年次に該当するカリキュラムが適用される。
- (ニ) 編入学生に対する特別措置として、第2部建築学科の開講科目のうち、予め許可された科目については、その科目を履修することで、建築学部の科目履修に代えることができる。詳細は、別途定める。

III 履修上の注意

- (イ) 3年次に進級する際、まちづくり学科、建築学科、建築デザイン学科のいずれかに所属が決定するが、所属において単位を修得した科目と同一名称の本学他学科開設科目がある場合、それを重ねて履修することはできない。また、名称の異なる科目であっても、別途定める「建築学部専門科目対応表」で、重ねて履修することのできない他学科開設科目を指定してあるので注意すること。
- (ロ) 履修上の注意については、必要に応じて建築学部掲示板にて指示する。